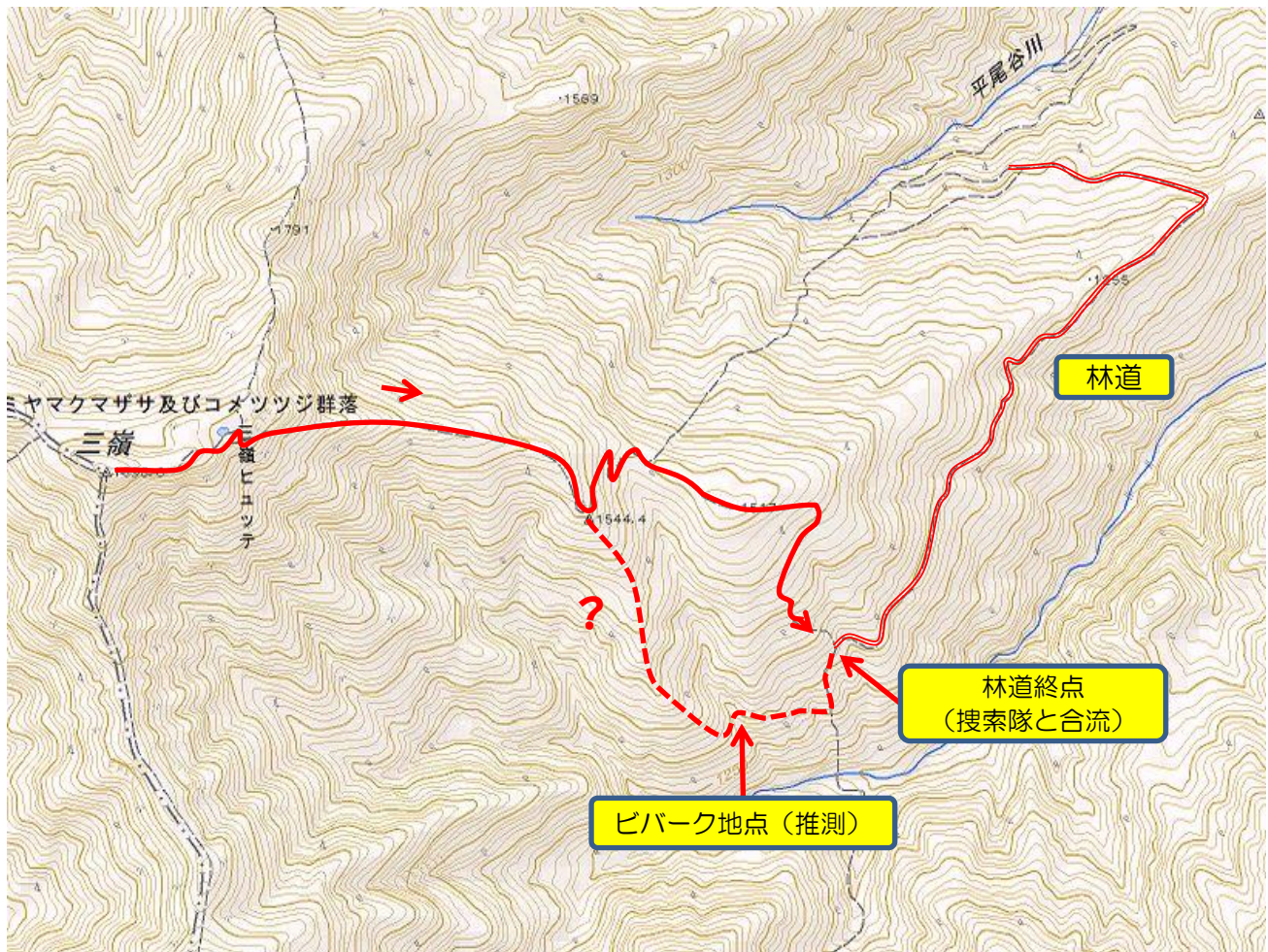


三嶺遭難(2011年10月)

日帰りて入山した香川県の13人(うち子どもが4人)が日没で下山できず、山中で一泊。翌日、自力下山した遭難者と林道終点で捜索隊が合流し事なきを得た。



解説

遭難者は香川県の会社の同僚11人(うち5~12歳の子どもが4人)と、別に入山した香川県の夫婦がルートを外している中で遭遇し、合流したものであった。グループの行動は、14時半頃に三嶺山頂から下山を開始。15時30分頃に道を外して迷った。17時 消防に下山できないと携帯電話から連絡をした。その後、沢でビバーク。

遭難者からは、「曲がることをまっすぐ行ってしまい沢に入ってしまった。」「暗くなったので無理をせずビバークする判断をした。」「沢でたき火をして暖をとった。」「GPSを持参しており、およその位置を把握していて不安はなかった。」「すぐ下に林道があることは分かっていた。」などの発言があった。

子供が含まれたパーティー。安全の上にも安全な行動をとって欲しい。今回の事例は、正しい判断と行動が最小限の遭難で収まった。こういった「無理をせず、たき火をして暖を取り、GPSで現在位置の確認をして不安はなかった。」という。

しかしながら、10時30分、登山開始。子供を含んだパーティーには、動き出しが遅い。また、幼児という言葉もあるので、全体の下山時間を考えたタイムスケジュールの管理も必要で、途中で引き返すことも歩き出す前から、チーム内で確認しておくことが重要だと思います。